

# 時事新報

第千四百六十六號  
明治十九年十月十四日 水曜日  
舊丙戌九月十七日 (丁未)  
日出版六時三十分  
月入後六時三十分  
日入後六時三十分  
西曆一千八百八十六年

時事新報定價 (明治十九年十月一日改正)  
一、前年以前金五十圓 ○三箇月前金一圓五十圓 ○六箇月前金一圓  
時事新報社より直接ニ購取スルモノニ限リ本文定價ノ外ニ  
寄附金ノ受取アリト申ス  
時事新報廣告料前金一行ニ付  
一行廿四文字 一日限 六日限 七日限 十五日限 一月限 以上  
一行廿四文字 一日限 六日限 七日限 十五日限 一月限 以上  
一行廿四文字 一日限 六日限 七日限 十五日限 一月限 以上

## 支那貿易(前號の續)

前號に陳述せし如く支那の貿易には其向きの人物を擇  
ひと最も大切ありと雖も商貨上の機軸加減に至ても  
亦大に注意すべきものあり第一商貨の商賣の區域に割  
合はてて輸送せざる可らず、日本の商人は商貨上團結  
して其永く其利を占むるの習慣を乏しくして外國貿易  
品中何か一つの利益ありと聞けば銘々勝手手之を輸出し  
て一時に其の市場に持掛り賣價と競争するが如き途  
には濫製粗造は弊に陥り忽ち其の品の聲價を下して自  
他共に倒るゝ例少からず米國に日本の雜貨を輸出  
するの年來の商法にして随分利益あることなれども其  
の失敗するものは毎度の例とて買者の競争共倒の外  
かまよと云ふ支那の貿易は於ては特に此の弊多く先年支  
那にて我國の摺附木と需要し新製社の摺附木の如きは  
其評判特高く當時獨逸製と最上にて一摺二十八九  
弗新製社は二十四弗内外其他歐洲諸國の製は凡る十  
七八弗位の相場を以て此際我國輸出品に濫製粗造なく且  
つ其輸出額も幾分の制限ありたらんば永く一廉の支  
那貿易品と爲りしからん我國人は摺附木の輸出利益  
ありと聞か我も我もと處々方々に摺附木を製去一時  
に之を支那地方へ輸出したるが爲め品物は市場も溢れ  
且つ其中に濫製も多かりしかる支那人は商標の如何を問  
はず玉石混濁して日本マツチの不長かりとて一概之  
を排斥し遂に其需要を杜絶するに至れり、好ま又濫製  
の弊を免る凡そ物を賣るには先づ其物の利口を求むる市  
場を廣げ稍や算を得たる後に買物と持込む可き筈な  
るに之に反て未だ市場の廣狭も分明なきざる處に品  
物を堆くるとは勢其聲價を下さざるを得ず或る人  
が支那貿易の法を説き品物も因りては出張店に見本の  
みど備へ置き需用の客を見て其品物を取寄するに若く  
す巨多の品物を現地に貯ふべきは彼をして我下と爲し  
しむるの恐あり云々と云ひしは蓋し其要を得たるもの  
を云ふ可し、第二巨多の品物を輸出するには豫め其市  
場を轉換するの覺悟ある可き、日本人は概して未だ海  
外の地理商況に慣れず例へば品物を香港へ輸出するも  
其他の形勢如何を辨せず此處より他は市場へ來往する  
船便船賃は如何等甚だ不案内なるが故に香港にて賣捌  
けざるも其市場を轉換せずして泣く泣く投賣りする  
と常とす現に明治十七年中日本國中不景氣ありしが爲  
り内地にて所謂投資品を支那へ輸出するも流行せざ  
が其際大阪の商人にて伊萬里九谷等の陶器と同様に香  
港へ輸送せしも二三名あり斯くて差當り此陶器の需  
要者なれを以て之を内地の競賣館に陳列せしに當初の  
多少の買客もありしが時日を経るに隨て一對幾百圓の

花瓶も其價土の如くあるに至ると同時に兼て待設けら  
る外國商は忽ち之を購買せたり外國商は何故斯く陶器  
を買入せしやと云ふに香港は四通八達地なれば上海  
の方より西貢新嘉坡の方より將たマルボロン、シロ  
の方より自由自在に運輸交通するを得るが故に  
直段さへ安ければ何程同一の品物を仕入るゝも處々に  
配分して之を賣却するの道に窮せざればあり惜哉日本  
商人は此邊の事に不案内なるが故に香港にて售れざれば  
更其他の市場へ移らんとするの機軸なく金を土に換  
ふるが如く拙策に出でたることあり故に支那貿易に從事  
するもは特に此呼吸を知ることを緊要なりと云ふ第三  
商品の仕立をして需要者の意に合はしめざる可き、  
日本人は自分の技術に任せて商品を仕立つることなき  
ども支那人の固く自分の流儀を守るの人民あり而して  
日本人の賣る者も支那人が買ふ者もあれを賣る者は  
極めて買者の嗜好に投ずるの工夫なかる可らず例へば  
日本より輸出せる扇子は小形にして支那の男子の用  
に適せず甚だしきは此小形の扇子に日本の尋常賣賣家  
が羊山羅列、蛇刺併行の手際を示すもあれども畫畫と  
支那人の所長なれば偶々一笑を招くに過ぎざるのみ  
當初我輩海運より輸出せたる雜貨の白紙に黒字を商標  
を張りしに支那人は之を喜ばざるを以て遂に其紙を赤  
にしたるとあり其他素題と束ぬるに赤紙を以て摺附  
木に張るに五色の紙を以てするの氣受よ兒と等細かに  
需要者の嗜好を察したるは商賣上大に便利を得ると  
る可し

以上所列する所は支那貿易に關する注意の一斑に過  
ぎず且つ支那の大國として南北の人民其氣風習慣を同  
うせざるの點も多かる可き故に當局商人は凡そ此等  
の方向より細かに其商賣の道を探究するに甚だ肝要  
なりと思はる特に南支那の商賣に於て日本人の既に失敗  
の先例もあれば今度退々北支那の貿易を擴張するに就  
ては前例を鑑みて大に警戒する所ある可らずと信す  
るなり (元)

## 官報

○大學院貸費生 帝國大學に於ては九月二十二日  
を以て大學院學生下山秀久を大坂紡績會社貸費生と  
十月五日を以て同學生橋原久若を司法省貸費生と爲  
せり  
○分科大學貸費生 帝國大學に於ては十月六日を以て  
左の法科大學々生二十二名に司法省貸費生と聞届け  
たり  
法律科第三年學生石井常英、柿崎欽吾、高橋覺 同第  
二年學生平田慶衛、小田綱太郎、平沼一、鈴木加  
一、小松謙二郎、柳橋愛七、畔柳富五郎、平山鈴太郎、  
青木八重八、吉崎實次郎、増田武城、第一年學生、神  
崎東彌、平石氏人、加藤禮次郎、吉田佐吉、磯谷幸次郎  
、常松英吉、石原健三、渡邊千代三郎  
(以上本年十月十三日官報)

## 雜報

○新潟酒造家の組合 新潟縣下の酒造家は熱心其事業  
の改良進歩を圖り去る三月縣下同業者の親睦會を  
開き北越酒造業組合設立の事を議決せしが其際六人  
の起草委員三人の幹事と撰擧去創立の事を委託し爾後  
其計畫も粗ぼ緒に就きたるを以て去五六月の交會議を  
開く筈ありし處惡疫流行の爲に暫らく延引せし處最早

該病も鎮滅の姿なるを以て来る十一月五日新潟に於て  
再び縣下同業者の大親睦會を開き同組合の會則等を議  
決する筈なりといふ  
○札幌通信 (十月一日發) 去月廿五日は朝來大雨おて  
暫くも止ま間なく加ふるに午後より次第に風模様と  
り夜に入り漸く烈敷十時頃に至りては全く暴風雨の異  
体を顯し通常は二階家杯の殆ど難免程ありしが翌  
午前四時頃より次第に威力を減衰幸にまて家屋等には  
左程の損害を見ざりま尤も當地名産の果物殊に林檎は  
其損害を蒙ると著しく目下樹上も存在せるものも損傷  
の爲め痛く價格を落し折角の丹精も収獲の時あらず半  
は水泡に歸したるが如し○岩村長官の令弟林有造及  
び大江卓、吉田健三の三氏は兼て當地滞在の處去月廿  
七日迄に前後相繼ぎ何れも出發歸京の途に就きたり○  
本縣勸業課長 堀理事官は先頃より出京中なるが同氏  
今度の用向は主として移住民増殖の見込にて別途金下  
附の請願なりとの噂あり○札幌養蠶場 拜借の件ハ養  
に群馬縣佐位郡島村田島彌三郎及同姓浩造氏より連  
署出願しよりしが其後上州前橋の製糸家星野長太郎氏  
よりも願出たる由同氏は去る八月下旬一應來札幌現視  
察の上直に歸郷せり同氏が該場借用の申立は前橋養蠶  
改良會社の爲にするに在りとの聞ありしが果して然るや否  
や○麥酒釀造場 曩に内務外務兩大臣と共に來札きた  
りし大倉喜八郎氏は親しく札幌工業事務所の諸工場  
を一覽し其中に就き麥酒釀造場引請の義に付何考案  
のありたる由なりしが定先て同氏歸京決定する所あり  
まからん當地の大倉組出張店土田政二郎氏も義に歸  
京せしが不日再び來着り筈あり其上又委細を知る  
事を得べし○上川郡 岩村長官及湯池理事官が同地方  
へ出張せし事は過日電報せしが空知集治監の渡邊典獄  
も二氏と同行したる由元來此上川郡と申す石狩川の  
上流一面の廣野にて殆んぞ人跡もみだり所なれば今迄は  
石狩の川流より幾も達するを得ざりしが本年二月以  
來道路質測の爲先係官の出張あり遂に荆棘を伐り披  
て二十餘里の間漸く假道を通ずるに至り去と云ふ同地  
へは先づ試驗所と設置せるの見込なりとの事なるが  
民の移殖するに至る途には隨分障の取る、事ならん○  
開拓紀念碑 目下基礎建設最中なれば悉皆出來迄は  
尙は程遠きとならん碑石は可なり大なるものなれども  
碑面には未だ文字の彫刻と見ず○北海道物産共進會  
は本年は函館の順番なるが當月中旬會の筈にて本處より  
審査委員等は既に彼地向つて出發したり官の出品  
物は模範とあるべき者の外可成省略せる見込の由にて  
本處にて取纏めの物品は最早積出の運に至りたり○難  
澁 是全道中石狩を以て第一とす左れと本年は未だ季  
節前なるが爲先左またる漁獲なし目下市中小賣にて並  
物一尾廿五錢位あり○樺戸岩見澤開新道開設の噂あり  
りし樺戸一名志別と稱せ集治監の在る所あるが同地  
より札幌に通ずる便路は江別迄石狩川と下り同所より  
汽車を乗り移るか又は對馬村迄同川を下り同所より陸  
路を取るかの二つあり外は陸路あれども不便なり然  
るに右河流を往復する樂産商會の小汽船は通船甚だ繁  
うらざれば間々丸太舟(アイノ舟)に便らざる可うらざ  
るとあり然るに丸太舟おては上りの節途中必ず一宿を  
要するのみならず甚だ危険の思ひあるを以て隨分不便  
と申すべきなり依て岩見澤樺戸間は最も近接(聞く此  
間僅に四五里あるべし)の處なれば此間も馬車道を  
通ずれば岩見澤より汽車にて札幌に來るを得るを以  
て結局樺戸札幌間往復の便利を増すと一と方ならず左  
れば該新道の開設は甚だ望ましき事と信するあり○函  
館郵便管理局長 海上航路氏は先般根室より陸路札幌

來り目下滞在  
○金澤通信 (十月三日發) 會を開く筈にて  
去が本年は米師  
縣師範學校より  
七十五名女子四  
さん爲先試驗  
又三十三名あり  
後留置置き由  
○去月廿五日夜  
より風再び起り  
起り雨降りま  
より風再び起り  
に恐るべし勢  
時過より雨降  
信者が聞見し  
三十餘戸其他  
筋の松樹は金  
れたり各部の  
て特々作物の  
隊第一大隊第  
送られしが同  
より當分區内  
九名あり○當  
日暴風の翌日  
米五圓三十錢  
り新米も從て  
昨年の當時は  
少なきに因る  
○旅の見聞 (○  
○籾紙業の沿  
に言ふまでも  
は尙も信州の  
造の弊起り例  
非常の損害と  
かんとも難し  
の蘆紙製造人  
此病毒を撲滅  
先づ其本源た  
其目的を達す  
事業は獨り長  
殷富上は影響  
難既にこれが  
所ある由あり  
今日にては秋  
種に抵抗を試  
化して論をば  
幸の際、小縣  
合任命にて取  
皇養元二年(今  
獻すに見えた  
業ありしと思  
茫乎とて考ふ  
證するに方今  
昔一の金子)  
卵紙不足と生  
桑を尤も適当  
申合せ奥州に  
借受け蘆紙の  
州に在て製種  
の國々に産せ  
書に大如來と  
種を所望と天

來り目下滞在  
○金澤通信 (十月三日發) 會を開く筈にて  
去が本年は米師  
縣師範學校より  
七十五名女子四  
さん爲先試驗  
又三十三名あり  
後留置置き由  
○去月廿五日夜  
より風再び起り  
起り雨降りま  
より風再び起り  
に恐るべし勢  
時過より雨降  
信者が聞見し  
三十餘戸其他  
筋の松樹は金  
れたり各部の  
て特々作物の  
隊第一大隊第  
送られしが同  
より當分區内  
九名あり○當  
日暴風の翌日  
米五圓三十錢  
り新米も從て  
昨年の當時は  
少なきに因る  
○旅の見聞 (○  
○籾紙業の沿  
に言ふまでも  
は尙も信州の  
造の弊起り例  
非常の損害と  
かんとも難し  
の蘆紙製造人  
此病毒を撲滅  
先づ其本源た  
其目的を達す  
事業は獨り長  
殷富上は影響  
難既にこれが  
所ある由あり  
今日にては秋  
種に抵抗を試  
化して論をば  
幸の際、小縣  
合任命にて取  
皇養元二年(今  
獻すに見えた  
業ありしと思  
茫乎とて考ふ  
證するに方今  
昔一の金子)  
卵紙不足と生  
桑を尤も適当  
申合せ奥州に  
借受け蘆紙の  
州に在て製種  
の國々に産せ  
書に大如來と  
種を所望と天